

新学習指導要領(音楽)におけるプログラミング教育の位置づけ

Positioning of the programming education in the new course of study (music department)

田村 幸雄(厚木市立藤塚中学校)

Yukio Tamura(Atsugi City Fujiduka junior high school)

(キーワード)

新学習指導要領 音楽科、プログラミング教育

1. 小学校におけるプログラミング教育とは

文部科学省は「小学校段階におけるプログラミング教育の在り方について(議論の取りまとめ)」を公開した。

この中では、小学校教育段階でプログラミング言語を覚えたり、プログラミングの仕方を習得したりすることを目的としているのではなく、プログラムの仕組みに興味・関心を持ち、かつ仕組みを作ることに興味・関心をもたせ、「プログラミング的思考」という、論理的な思考の育成を目的としている。

「プログラミング的思考」とは、目的を達成するための必要とする知識や技能を見つけ出し、それを効率的・効果的な組み合わせを論理的に考え出す力としている。

これらのことは、音楽科での「音」を「音楽」へと構成する音づくりの活動はプログラミング教育といっても差し支えないであろう。

また、ICTの活用で楽器演奏などの技能が十分でない子でも、音楽づくりや演奏が可能となるのである。

新学習指導要領では、プログラミング教育をするための新しい教科を設けてはいないが、「総則」においてプログラミング教育が明記されたことで、6年間の学習過程のどこかで必ず取り上げるように、ということが示されたことになる。また、プログラミング教育については、特定の教科や学年を指定せず、プログラミングの体験を「論理的思考力」を身につけるための手段と位置づけ、学校の実態に応じて必ず実施することを求めている。

2. 「音楽科」でのプログラミング教育の位置づけ

コンピュータの活用については新学習指導要領「第3 2 (1) ウ」に新設されるとともに、解説にはコンピュータ機器の活用についても事例が書かれ、子ども達に明確な目的を持たせ、「音符、休符、記号や用語」について音楽におけるはたらきと関わらせて理解できるような指導の工夫が強調されている。

3. 最後に

「音楽づくり」は、音や音楽の見方を広げていくことができ、友達と協同の喜びを実感することができ、アクティブラーニングを実現できる大切な教育活動である。また、音楽づくりは、論理的思考を育成するのにとても有効であるといえる。

しかし、教師の多くが音楽づくりの授業を経験していないことや、具体的な指導法や活動における子供の姿をイメージしにくいことなどから、教師にとって指導が難しい内容となっており、音楽づくりの授業が必ずしも効果的に行われていないのが現状である。

教師を目指す学生達の中には、音楽を苦手としている者も少なくないはずである。そのような学生達に、ICTを活用した音楽授業の在り方や音楽づくりについて、学ぶ機会を与えることも必要ではないだろうか。

また現役の教師は、学習指導要領改訂を機会に自分の授業を見直して、授業改善に取り組むことも必要なのである。